閖上と汰上は津波起源の地名か

河内一男　（新潟薬科大学）

§1. はじめに

畿内地方を除けば，古文書等の文字史料は江戸期より前の時代までさかのぼると急に減少する．これには政治体制が未成熟であったことの他に，室町末期～江戸初期の検地・刀狩でそれ以前の地方文書が回収・処分されたらしいこと，地方には個人の日記などの残っている事例が皆無に近い状態であること，などの理由が考えられる．それで，中央で書かれたわずかな史料から垣間みる程度になる．したがって地震の記録も極端に減少する．たとえば宇佐美龍夫「日本被害地震総覧（最新版）」では，江戸期260年間の記載ページ数144に対し，室町期以前の1000年間のページ数はわずか15である．しかし，記録の少ないことが地震の少ないことにつながってしまっては防災対策上不都合だ．そこで，ほかの手だてはないものかと，あれこれ模索してみた．

文字史料がない時代の地殻変動の様子を知る手段として地質学的手法が有効であるのは当然だが，それではデータ量が少ない．多少正確さを欠くことがあっても，過去のできごとを地名や伝承などを通じて考えることもときに必要と考える．本論では地名のうち，とくに「ゆり」，「ゆりあげ」，「よりあげ」と発音する地名と津波や地震との関係について検証する．

§2.「ゆり」の付く地名

「ゆり」またはそれが転訛したと推定される地名を列挙すると

①宮城県名取市閖上．ゆりあげ．
②新潟県新潟市西蒲区東汰上，西汰上．よりあげ．
③同県同市同区鎧潟．よろいがた．現在干拓地．　④同県同市中央区寄居浜．よりいはま

「ゆ」と「よ」は以下の理由で同義である．

新潟県地方では，かつては「ゆ」はほとんど「よ」に転訛した．例えば，夕方のことをよがた，ゆうべがよんべである．親が子に雄太郎という勇ましい名前をつけても，呼ぶときは「ようたろう」「よたろう」であった．

これを敷衍すれば次のような転訛となる．

②は，ゆりあげ→よりあげ
③は，ゆりいがた→よりいがた→よろいがた
④は，ゆりいはま→よりいはま

①から⑤まで，もとの言葉は「ゆり」「ゆりい」「ゆりあげ」であることは明らかである．②について両集落は，江戸期には，ゆり上または揺上と表記されていた〔［新潟県史資料編，第８巻，付表，郷村帳，p.1033］，［橘崑崙，北越奇談巻の三，其の十一］〕．しかし，地元では現在使われている「汰：より」が，両集落の間を流れる西川が運んできた土砂がより（汰り）上がったことによるものとされている．後付けの当て字から語源とは異なる意味が創出されたのである．後述する閖上を含めて他の地名も後付けの当て字が通説となって市町村史などに紹介されている．

§3. 諸橋轍次の大漢和辞典

①の名取市閖上の「閖」の字について，世界最大の漢和辞典とされている諸橋轍次「大漢和辞典（巻十一，七三六頁）」を引用する．

閖　：国字．ゆる，ゆり，ゆれる〔観聞志〕
按，閖字未見字書，俗間用来，而取水波激蕩之状．
〔閖上〕ユリアゲ　宮城県の地名．〔封内風土記〕
淘上濱，有市店，而驛有，國俗作閖上

観聞志とは奥羽観蹟聞老志のことで，仙台藩主伊達綱村の命により編纂され亨保四年（1719）に完成した同藩地誌である．封内風土記は，仙台藩主伊達重村の命により編纂され，明和九年（1772）に完成したものである．現在通説となっているのは，伊達綱村が大年寺という寺の落慶法要の際に山門の間からこの浜と海が見えたことから，それまで「ゆりあげはま」という音しかなかった地名に閖という文字を作って与えたというものである．しかしその綱村の観聞志が閖は「水波激蕩之状」という意味だろうか，と書いている．

§4. 庄内沖地震の記録に「閖揚」の文字

この「閖」という文字を天保四年（1833）庄内沖地震の記録中に発見した（村上市史資料編３近世二，826頁）．

（前略）右船滓之類之内，同浜地方上ミ浜之方江閖揚居候ニ付（後略）．

桃崎浜は現在の新潟県胎内市桃崎浜．江戸期は北前船の寄港地であった．河川改修により今はその面影がないが，当時は河口南方の村上市海老江と胎内市桃崎浜の両集落まで入り江が広がって，大型の北前船が入港できた．引用の記録は，停泊中の松前藩の御用船が引き波で外海に押し出され，次の寄せ波で入り江にある港ではなく外浜（砂浜）に押し上げられた様子を記述したものである．津波の水が浜に上がる様子を「閖揚居候（ゆりあがりおりそうろう）」と表現している．

§5. 閖上は水波激蕩之状

越後では「ゆ」が「よ」に転訛する．そして江戸期に「閖り揚がる」という言葉が少なくとも越後村上で普通に通用していたらしい．よりあげ，よりいはま，よりいがた（鎧潟）などは，もとはゆりあげ，ゆりいはま，ゆりいがたであり，名取市閖上と同様に津波起源の地名と推定

される．その意味は「大漢和辞典」，［観聞志］の「水波激蕩之状」をとるのが妥当であろう．